

会 議 録

令和8年7月16日作成

会議名	令和8年度第1回木更津市地域協働推進協議会		
開催日	令和8年6月29日（月曜）		場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室2-6
時 間	午後1時30分から午後3時30分まで		
出席者	○委員 江澤茂典委員長、明元道男委員、鵜田宏委員、渡邊栄一委員、青木健委員、秋元豊委員、大村富良委員、市川一成委員、原田忠吉委員、高木厚行委員、鶴岡仁委員、鳥海初男委員、中村伸一委員、山下紀世美委員、山中喜暁委員、志渡誠一委員、滝口君江委員、水島享子委員（18名出席） ○木更津市 渡辺芳邦市長、鈴木和代市民協働部長、水谷勝則市民協働部次長(兼)市民活動支援課長、島村領一課長補佐、齋藤あい子地域支援係長、畑野高広センター管理係長、清原颯主事		
議 題	(1) 正・副委員長の選出について (2) 地域協働推進協議会について (3) 地域運営の現状について（意見交換）		
公開・非公開の別	公開	非公開理由	—
傍聴人	3人		
概要	下記のとおり		

<会議の概要>

1. 開会

○事務局（島村）

ただいまより、令和8年度第1回木更津市地域協働推進協議会を開会いたします。

2. 委嘱状交付

○事務局（島村）

初めに、木更津市地域協働推進協議会の委員就任にあたり、委嘱状の交付を行います。

委嘱状は、渡辺市長より交付いたします。自席にてお受けいただきたいと思いますので、江澤様から名簿の順に交付をさせていただきますので、お名前を呼びしましたら、恐れ入りますが、その場でご起立いただきますようお願いいたします。

（委嘱状交付）

○事務局（島村）

ありがとうございました。本日欠席の委員には事務局から後日お渡しさせていただきます。

3. 市長挨拶

○事務局（島村）

続きまして、渡辺市長よりご挨拶申し上げます。渡辺市長、よろしくお願いいたします。

（市長挨拶）

○事務局（島村）

ありがとうございました。

4. 自己紹介

○事務局（島村）

続きまして、次第4、自己紹介を行います。

今回は初開催となりますので、委員の皆様より、自己紹介をお願いしたいと思います。江澤委員から時計回りにお名前をお呼びいたしますので、恐れ入りますが、ご起立のうえ、一言ご挨拶をお願いします。

（各委員及び事務局より挨拶）

○事務局（島村）

自己紹介は以上となります。改めまして皆様よろしくお願いいたします。

なお、渡辺市長におかれましては、次の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。

（市長退席）

5. 議題

○事務局（島村）

それでは議題に入ります。

本協議会の議長は、附属機関設置条例第6条により、委員長が務めることになっておりますが、本日は初めての協議会で、委員長は、現時点で決定しておりませんので、決定するまでの間、鈴木市民協働部長が仮議長を務めさせていただきます。鈴木部長、議長席まで、よろしくお願いいたします。

○仮議長（鈴木部長）

改めまして、市民協働部長の鈴木と申します。委員長が決まるまでの間、仮議長を務めさせていただきます。

だきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

まずご報告でございますが、本日の出席委員数は18名でございます。よって、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、過半数の出席をいただいておりますので、本協議会は成立いたします。

それでは、これより議事に入ります。議題1 正・副委員長の選出についてを議題に供します。

委員長及び副委員長の選出は、附属機関設置条例第4条の規定により、委員の互選となっております。選出はいかがいたしましょうか。

○原田委員

事務局に一任します。

○仮議長（鈴木部長）

ただいま、事務局一任というお声が上がりましたが、事務局案はありますか。

○事務局（水谷次長）

事務局案といたしましては、委員長には、金田地域交流センターの前センター長である江澤委員を、副委員長には、本日欠席ではございますが、木更津市市民活動支援センター運営協議会委員の朝長委員を推薦いたします。

両名の推薦理由でございますが、まず、江澤委員は、本市において先行的に設置した金田地域交流センターの立ち上げ期に、初代センター長として、運営体制の構築や、住民・関係団体との連携づくりに中心的な役割を果たされました。これらの経験を通じて培われた課題認識や運営ノウハウは、今後、本市の地域交流センターの運営や地域協働の推進にあたり、大変有用であると考え、委員長として推薦するものでございます。

また、朝長委員は、ご自身の市民活動の実績に加え、木更津市市民活動支援センター運営協議会委員として、地域における市民活動の推進や多様な主体との連携に関する豊富な知見をお持ちであります。こうした知見を本協議会の運営および今後の地域づくりに生かしていただきたく、副委員長として推薦するものでございます。

○仮議長（鈴木部長）

ただいま、事務局から委員長に江澤委員、副委員長に朝長委員を推薦したいとの発言がありましたが、皆様いかがでしょうか。

○委員一同

異議なし。

○秋元委員

一点だけ教えていただきたいのですが、朝長さんの団体である「おとのわ」という団体はどんな団体でどんなことをされているのか、お知らせいただければと思います。

○仮議長（鈴木部長）

事務局よりご説明をお願いします。

○事務局（島村）

ただいま質問がございました「おとのわ」という団体は、子どもから高齢者までの幅広い方々を対象に、音楽を通じた交流事業を行っています。例えば、有名なバイオリン奏者を呼んで、バイオリンを身近に感じていただきながら、地域の様々な世代が交流するイベントを開催するなど、地域のつながりを大切に市民活動に取り組んでいただいております。

○仮議長（鈴木部長）

他にご質問はよろしいでしょうか。それでは、ご異議ないものと認め、委員長に江澤委員、副委員長に朝長委員を選出させていただきます。

それでは、今後の進行につきましては、江澤委員長に議長をお願いさせていただき、私、仮議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。

○事務局（島村）

鈴木部長ありがとうございました。それでは江澤委員長、これからの議事進行よろしくをお願いします。

○議長（江澤委員長）

議長を務めさせていただくこととなりました、江澤と申します。円滑な議事進行にご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは、議題2 地域協働推進協議会についてを議題に供します。事務局より説明をお願いします。

○事務局（清原）

それでは、議題2 地域協働推進協議会についてご説明いたします。

「第1回地域協働推進協議会 会議資料」と書かれた資料をご覧ください。

はじめに、2ページをご覧ください。

まず、本協議会の設置趣旨につきましては、近年、地域課題は多様化・複雑化しており、行政だけ

での対応が難しくなっています。

また、人口減少や高齢化の進行により、地域の支え合いの重要性も高まっています。こうした状況を踏まえ、本市では市内15地区すべてに「地区まちづくり協議会」が設置されるとともに、令和8年4月1日から、公民館を「地域交流センター」へ移行いたしました。これらの取組を踏まえまして、地域交流センターを拠点とした地域づくりをさらに推進するため、地域の多様な主体が対話を通じて地域の将来像について共有し、協働による取組を進める場として、本協議会を設置するものでございます。

また、これまで、公民館長の諮問機関として、「公民館運営審議会」がございましたが、本協議会は、公民館運営審議会が担ってきた施設運営への助言や地域の声の反映などの機能を継承しつつ、地域づくりを推進する役割へと発展させてまいります。

次に、3ページをご覧ください。（2）主な協議テーマでございますが、地域づくりでは、「担い手となる人」と「活動する場である拠点」の両方が重要となります。本協議会では、この2点のテーマを中心に議論を進めていきます。

1点目の「担い手」につきましては、地域の多様な主体における活動の活性化と、相互の連携の強化について検討を行います。

2点目の拠点については、地域交流センターを活用し、交流や新たなつながりが生まれる場としての機能をどう高めていくか、今後の施設機能のあり方について検討を行います。

次に、4ページをご覧ください。（3）令和8年度のスケジュールです。

令和8年度は、年3回の開催を予定しており、本日、第1回目は、先ほど実施しました正副委員長を選出や本協議会について説明したのち、地域運営の現状について意見交換を実施いたします。第2回目は9月中旬頃に開催し、本日の結果などを踏まえた今後の方向性等について協議を行い、第3回目は年明け、2月下旬頃に開催し、次年度に向けた取組について協議を行っていく予定です。

議題2の説明につきましては、以上でございます。

○議長（江澤委員長）

事務局の説明が終わりました。

ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等ありましたら、挙手の上、ご発言をお願いします。

○明元委員

ざっくりした説明はわかりましたが、具体的にこの協議会では何をしてもらいたいのか、そこが見

えない。皆さんお忙しい中、普段の平日の日にお集まりいただいているわけですから、こういうものを作りたい、こういうものを示したいという道筋のような具体的なものがあれば教えていただきたい。附属機関設置条例の中に入れて議員さんにも当然ご説明されていると思うんですけども、先がよく見えないということです。

○事務局（島村）

各団体におかれましては、日々、地域で色々な活動をされて、地域づくりを行っていただき、本当に感謝しております。そのような中、市との協働に向け、例えば、市の補助支援はどうあるべきか、地域交流センターがどのような場所になったらいいかなど、市も取組を進めていく必要があると思います。本協議会は、そのような市の方向性に対し、皆さんのご意見をいただく場として考えております。また、例えば、様々な組織において、加入率低下や担い手不足がある中で、今の組織のあり方や組織の再編等も考えていく必要があるのではないかと思います。これらについて、市が音頭をとって進められることもあると思います。具体的ところは、まだこれから始まるので、今、申し上げられませんが、この会議を通じて、決めたことは実行に移すような形で、毎年一歩ずつ前進していきたいと思っております。

○秋元委員

地域協働推進協議会の位置付けを明確にさせていただきたいと思います。この協議会が単なる意見交換や話し合いの場なのか、それとも、ここで出された意見を市が受け止め、今後の施策や地域づくりに反映していく場なのかが分かりません。参加者はそれぞれ多忙な中で時間を割いて参加しているため、議論した内容が何にも繋がらず、地域に戻っても変化がないという状況は避けるべきだと思います。そのため、この協議会の目的や役割を明確にするとともに、ここでの議論を市がどのように受け止め、活用していくのかを示していただきたいと思います。もし整理されていないのであれば、早急に整理していただきたいです。

○事務局（島村）

委員のおっしゃるとおり、この協議会での結果や提言を施策に反映していきたいと考えています。

今後、1年なのか、2年かけてなのか、皆様に審議・提言をいただき、その内容を踏まえて、市として実行に移していくことを考えています。

○議長（江澤委員長）

この会でおそらく皆さんからいただいた発言や提案等は必ず形になってくると私は考えております

ので、ぜひ皆さんの中から色々な意見、それとこの会をどうしていきたいのかということも踏まえて話し合いができたならなと考えておりますのでご協力よろしくお願いします。

○原田委員

令和8年度のスケジュールについて、3回という開催回数ですが、なぜ3回なのか、できれば4回の方がいいのかと思います。議論していくのであれば3回では足りないような気がします。

○事務局（島村）

予定として3回とさせていただきましたが、議論が足りない部分も出てくると思いますので、必要に応じて回数が増えていくということも考えられるものと思います。

○議長（江澤委員長）

何か他にご意見はありますか。では、質疑を終了とします。

続きまして、議題3 地域運営の現状についてを議題に供します。事務局より説明をお願いします。

○事務局（清原）

それでは、議題3 地域運営の現状についてご説明をさせていただきます。

先ほどの資料の5ページをご覧ください。まず本市の現状についてご説明いたします。

（1）人口推移につきまして、本市では、東京湾アクアラインによる交通利便性や区画整理事業による住宅地の整備等により、大きく人口増加が続いておりましたが、近年では微増での推移となっているところでございます。

続いて、6ページをご覧ください。（2）高齢化率の推移につきましては、近年は子育て世代の流入等により、令和4年以降、若干の下降をしておりましたが、今後は再度上昇局面に入る見込みでございます。

続きまして、7ページをご覧ください。（3）地区別での高齢化率につきまして、令和2年と令和8年で比較したグラフになります。開発の影響で、金田、岩根方面は下降傾向にありますが、それ以外の地域につきましては、横ばい又は上昇傾向にある状況です。

続きまして、8ページをご覧ください。（4）自治会加入率等の推移でございます。ここから地域運営組織の現状になりますが、地域で最も身近で、生活に密着した自治組織である自治会につきましては、加入率が年々低下しており、令和7年には約半数となる53.9%まで低下している状況です。アパートやマンション居住者の増加や、生活スタイルの変化など、社会環境の変化が大きく影響

しているものと考えております。

続きまして9ページをご覧ください。（5）地区まちづくり協議会の状況でございますが、スライドにあります団体につきましては地区まちづくり協議会の構成団体の一例ということで掲載させていただいておりますが各地区では自治会をはじめ民生委員や防災組織、PTAなど様々な団体が役割を分担しながら活動をいただいております。地区まちづくり協議会はこれら地域の様々な団体が連携、協力し、住みよいまちづくりを推進する中核的組織として担っていただいております。

続きまして、10ページ・11ページをご覧ください。（6）地区まちづくり協議会の活動状況でございます。各地区のまちづくり協議会では防災・防犯・交流・生活支援など地域の実情に応じた多様な活動が行われております。いずれも地域課題に対応する実践的な取組を実施していただいております。

続きまして、12ページをご覧ください。（7）地区まちづくり協議会への支援につきまして、市では地区まちづくり協議会に対し、人的支援、財政支援の両面から活動を支援しております。具体的には協議会の事業などに対する市職員の派遣や地域交流センター職員による事務局機能の支援など、人的支援を実施するとともに、運営に係る補助金の交付など財政支援を実施しております。今後は、本協議会でのご意見などを伺いながら、より良い支援となるよう最適化を図っていきたいと考えております。

続きまして、13ページをご覧ください。（8）地域交流センターの概要でございます。地域交流センターは、地域づくりや地域交流の推進を図るため、公民館から移行いたしました。表にありますとおり、公民館と比べ、開館時間の拡大や開館日の増加、営利利用を可能にするなど、より利用しやすく、地域づくりの拠点として、様々な交流を創出していきたいと考えております。

続きまして14ページをご覧ください。（9）センターの新たな活用例として、例えば、学習塾や直売所、マルシェ、テレワークや仕事の打ち合わせなど、様々な活用ができるようになっております。

続きまして15ページをご覧ください。（10）地域交流センターの業務につきましては、センター長と事務職員を数名配置し、交流事業の実施や市民の活動支援、地域の情報発信、講座や学級等の生涯学習など、地域課題の解決や地域の活性化に向け、様々な業務を行ってまいります。

続きまして、16ページをご覧ください。（11）地域交流センターの運営体制ですが、地域交流センターの職員は、これまでの公民館職員と同様に、活動支援や学習機会の提供、施設の管理運営、

各種行政サービスの提供を担ってまいります。これに加えて、市役所の関係課をはじめ、企業や各種団体など、様々な主体をつなぎ、巻き込みながら地域づくりを進めるコーディネーターとしての役割を担っていきます。地域づくりの推進役、そして調整役として、地域活性化を一步でも先に進めてまいりたいと考えております。

続きまして17ページをご覧ください。(12)地域交流センターの施設ごとの1日平均利用者数につきまして、こちらは令和7年度の状況になります。施設規模により利用者数の差はありますが、交流を活発化するため、様々な団体や企業等にご活用いただけるよう、さらなる活用促進に向けて取り組んでいきたいと思っております。

最後に18ページをご覧ください。本日の意見交換の内容について、ご説明をさせていただきます。本日は、日々地域活動に取り組まれ、地域と関わる中で、現在感じている課題や今後に向けて考えていること、できそうだと思うことなどを各団体の立場から率直にご発言いただきたいと考えております。1人当たり3分以内でお願いしたいと考えております。なお、本日ご発言いただいた内容につきましては、各団体の取組や市の支援策の方向性等として取りまとめを行い、次回、第2回協議会でお示ししてまいりたいと思います。

説明は以上となります。

○議長（江澤委員長）

事務局の説明が終わりました。まず、委員の皆様からご意見をいただく前に、ただいまの事務局の説明に対して質問等ありましたら、挙手の上ご発言をお願いします。

○秋元委員

資料17ページのところに、公民館の現状で1日利用者数が出てますね。中央だと109人、岩根が31人と出ていますが、これは単純にその施設に来た人数で測っていますよね。平米数とか部屋数が違いますので、逆に平米数あたり何人という風にやった方が、具体的に小さいところは小さいところで頑張っているというのは分かってきます。このまま見ると、金田は頑張ってるが他は頑張っていないんじゃないかと見えてしまう。その辺の見方をより分かりやすくする方法を、市の職員も考えていただきたいなと思います

○原田委員

平均利用者数を見て、これは何をやりたいのですか。どれだけ使っているかということでしょうか。この資料を基に何を知りたいのでしょうか。

○事務局（島村）

この資料は、施設間で競うのではなく、それぞれの施設をより良くしていくための参考として掲載したものです。4月から地域交流センターへ移行したことに伴い、施設を多くの方に利用していただきたい、これまで利用してこなかった方々にも利用していただきたいと考え、各施設が現状を上回ることを目標に取り組んでいきたいと考えています。

ただ、資料の作り方として横並びで比較しているように見え、誤解を招いてしまった点についてはお詫びいたします。

○原田委員

私が考えるのは、会議室などがいくつもありますよね。その利用状況、つまり使用率が一番重要なのではないかと考えています。利用者数そのものではなく、会議室や施設が実際にどれだけ稼働しているかが重要です。稼働していないのであれば、その施設は十分に活用されていないということであり、もったいないと思います。そのため、利用者数よりも施設がどれだけ利用されているのか、どれだけ稼働しているのかという点が、一番重要な指標ではないかと思っています。

○事務局（島村）

稼働率を記載した表を作成しまして、皆様にデータをお配りできればと思います。

○山下委員

やはり稼働率がどれくらいかが重要ですから、稼働率の部分で表示していただければ、分かりやすいのではないかと思います。

○議長（江澤委員長）

では稼働率で、資料の作成をお願いします。

○滝口委員

私は今まで公民館を利用しており、今年から交流センターになりましたが、利用歴は24年になります。その中で、一つお伺いしたいことがあります。それは施設の申込方法についてです。まちづくり協議会の皆さんとは少し違う視点かもしれませんが、施設利用の申込は毎月1日から10日まで受け付けていますよね。その際、営利目的で利用する人と、そうでない人がいると思いますが、利用回数に制限はあるのでしょうか。例えば、月に何回まで利用できるのか、それとも何回でも申込ができるのでしょうか。私が公民館で行っている活動では、どうしても部屋が取れません。土日に月2回利用したいのですが、なかなか予約が取れない状況です。交流センターの職員に何うと、「抽選ですの

で公平です」と説明を受けました。しかし、その状況がずっと続いており、現在は12月頃まで予約で埋まっているような状態です。そうすると、これまで長年多くの方を指導してきた活動や、文化祭に向けた練習などにも支障が出てしまいます。公的な事業であれば施設を確保していただけるので問題ありませんが、私たちが自主的に利用しようとするとうちが取れません。また、利用できる部屋数にも限りがあります。

そこでお聞きしたいのですが、予約は具体的にどのような方法で決まっているのでしょうか。抽選の仕組みはどうなっているのでしょうか。また、利用回数について「月2回まで」、「月3回まで」といった制限があるのでしょうか。長年利用してきた立場として疑問に感じていますので、教えてくださいたいと思います。

○事務局（島村）

利用回数については、月何回までという制限はありません。抽選の仕組みは、毎月1日から10日までの申込期間中に予約を受け付け、同じ部屋に複数の申込があった場合は抽選で利用者を決定しています。

また、営利利用については利用条件に差を設けており、サークルなど、市内利用者は6か月前から申込みできますが、営利利用者は3か月前から、市外利用者は2か月前からの申込が可能となっています。

○滝口委員

私どもの活動は和室でなければ行えない内容なので、どうしても和室を利用する必要があります。一方で、和室を必ずしも必要としない利用者も、準備の手間が少ないなどの理由で和室を利用しているように感じています。

私は23年間、公民館で活動をしてきましたが、最近はなかなか和室が利用できず、この点について疑問を感じていますし、とても残念に思っています。そのため質問させていただきましたが、予約が抽選によって決まる仕組みであれば、それは仕方がないと思っています。

○事務局（島村）

和室は部屋数が限られるところがありますので、例えば、他の地域交流センターの和室を使用することは、いかがでしょうか。

○滝口委員

他のところは、行けません。使用する道具も多く、金田など他の施設に和室があったとしても、簡

単に移動できる状況ではありません。活動内容によって大きな道具や小さな道具を使い分けていますが、基本的には現在利用している和室で行うことが前提になっています。

一方で、和室でなくても活動できる団体もあると思います。交流センターの職員に相談した際も、「他の部屋でもマットなどを敷けば利用は可能だが、予約した方には利用する権利があるので、抽選の結果で決まった以上は変更できない」と説明を受けました。和室は準備の手間が少ないため利用希望が多いのだらうと思いますが、私たちにとっては代替が難しいため、その点を以前から気にしていました。強く要望するというものではありませんが、これまで長年、公民館から依頼を受けながら活動を続けてきた立場として、意見を述べさせていただきました。

○事務局（島村）

各団体が柔軟に利用できるよう、各センターと運用方法を検討していきたいと思います。

○滝口委員

金田地域交流センターでは利用者が非常に多く、施設を利用するために朝早くから並んで予約を取らなければならない状況があると聞いています。そのような状況についても、今後どのように対応していくのかを協議していただきたいと思います。

○事務局（島村）

利用しやすい施設運営については、今後、各地域交流センターとも協議しながら進めていきたいと思っています。

○議長（江澤委員長）

施設利用については、使いづらくなったという意見もあれば、逆に使いやすくなったという意見もあると思います。そのため、このような場で皆さんから意見をいただきながら、少しずつ改善につながる提案をしていければと考えています。小さなことでも大きなことでも構いませんので、遠慮なく意見を出していただければと思います。

○秋元委員

私はまちづくり協議会の福祉部長という立場で参加しておりますが、基本的には地域交流を進めることを中心に活動しております。皆さんの地区では、住民の方に「まちづくり協議会をご存じですか」と聞いたとき、どのくらいの方が理解されているのでしょうか。私どもの地区では、十数年前から活動を始めていますが、最初の5～6年は自治会役員の中でも、まちづくり協議会を知らない人がかなりいました。ここ10年ほどで、自治会役員の皆さんには理解していただけるようになりました。

が、地域住民の方に聞くと、今でも「それは何ですか」と言われることが少なくありません。

そこで、皆さんの地区では、まちづくり協議会についてどのように周知しているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（江澤委員長）

皆さんの中で、まちづくり協議会の周知方法ですとか、認知度がどの程度広まっているのか、あるいは現在どのような状況なのか、また、どのような方法で住民の皆さんにお知らせしているのかなどがありましたら、ぜひ教えていただきたいのですが。

○鶴田委員

富来田地区は、公民館だより、今は地域交流センター通信ですが、そちらの方で、まちづくり協議会については、ちょこちょこ出てきます。それと、私どもは高齢者の移送をやっており、全域を対象に高齢者の送迎をやっておりますので、まちづくり協議会の看板を付けて走っています。そういう意味では、まちづくり協議会の PR は十分できております。それから、いろいろな行事になりますと、まちづくり協議会として会長が出かけていきます。色々なところで盛り上げてくれているということで、自然に広がっているということでございます。まだまだ足りないと思うんですが、周りで持ち上げてくれているというのが富来田地区でございます。

○大村委員

金田地区では、毎月「金田コミュニティカフェ」を開催しています。また、交流センターが毎月発行している「金田ペーパー」に、コミュニティカフェの案内や交流センターのイベント情報、親子向けの体験事業などを掲載しています。この「金田ペーパー」は、各地区の回覧板で回覧するとともに、交流センターや出張所にも配置し、地域の皆さんへ周知しています。世帯数はそれほど多くありませんが、自治会加入世帯に対しては、このような方法で情報発信を行っています。

○原田委員

中郷地区では、まちづくり協議会を地域内の様々な組織をつなぐ組織として位置付けています。その根底にはコミュニティスクールの考え方があり、子どもたちのために地域全体で活動し、地域の活性化を図ることを目指しています。青少年育成、社会福祉、子ども会など、それぞれの組織は個別に活動していますが、まちづくり協議会はそれらを横断的につなぎ、みんなで相談しながら地域を盛り上げていく場となっています。個々の組織だけで活動するのではなく、組織同士に横串をさして、連携を図ることが、まちづくり協議会の役割だと考えています。

○議長（江澤委員長）

他にはございますか。特に無いようですので、意見交換に進みたいと思います。先ほど事務局より説明がありましたとおり、1点目として、日々、地域活動に取り組まれている中で、または事業を通じて地域と関わる中で支障になっている点や難しさを感じている点について、2点目として、今後の地域づくりに向けて各団体の立場、経験から感じていることやできることについて、これら2点の視点を踏まえ、各団体のお立場からご発言を賜りたいと思います。一人当たり3分以内を目安にお話ししてください。

○明元委員

岩根西地区では、担い手の高齢化が非常に大きな課題となっています。地区社協、民生委員、区長など、さまざまな地域活動を担う人たちの顔ぶれはほとんど同じで、次の時代を担う人材が不足しています。定年延長により地域活動の担い手となる世代は増えると思われますが、それでも課題は大きいと感じています。

そのため、若い世代や子どもたちに地域活動へ参加してもらおうと、夏休みのラジオ体操や三世代交流のグラウンドゴルフ大会、防災訓練などを実施しています。しかし、参加者はなかなか集まらず、木更津港まつりややっさいもっさいでも、去年はスタッフを除くと参加した子どもや親子は一桁程度という状況でした。

また、地域活動を支えているボランティア団体「ジェスパル」の協力も受けていますが、そのメンバーもほとんどが70代であり、高齢化が進んでいます。このため、現在行っている生涯学習活動や地域活動を今後も継続していけるのか、強い危機感を持っています。

今後については、まだ明確な方向性があるわけではありませんが、この協議会で皆さんの意見や事例を聞きながら、新しい方法や考え方を学び、それらを今後の活動に生かしていきたいと考えています。そして、地域住民が求めていることや、地域として住民に提供していくべきことを考えながら、地域活動を進めていきたいと思っています。

この協議会を、地域の課題や今後のまちづくりについて学び、考える場として活用していきたいと考えています。

○鞆田委員

富来田地区は、20数年前には人口が約1万人いましたが、現在は約5,000人となり、人口減少が大きな課題となっています。人口が減ることで地域組織の維持が難しくなっており、地区社協、区長

会、消防団、商工会、福祉施設など23の団体を束ねる「まちづくり協議会」が地域運営の中心的な役割を担っています。

まちづくり協議会では、道の駅の観光案内や施設管理、高齢者送迎サービス「ふくちゃんバス」の運行なども担っています。しかし、その担い手も高齢化しており、送迎の運転手は高齢者が中心で、今後は若い担い手の確保が大きな課題となっています。

また、人口減少と高齢化が進む中で、地域のさまざまな組織を有機的につなぎ、地域全体を支えていくこともまちづくり協議会の重要な役割となっています。地域では「まち協」として認知されるようになっていますが、今後はさらに厳しい状況が予想されます。

特に台風や地震などの災害時には、地域にいるのが高齢者中心となるため、どのように対応していくかを検討していかなければなりません。

さらに、消防団員の減少も深刻で、若い世代の入団者が少なく、保護者の理解も得られにくい状況です。そのため、分団の統合を行いながら何とか組織を維持しているのが現状です。

富来田地区では、人口減少、高齢化、担い手不足、防災体制の維持など多くの課題を抱えており、今後さらに課題が増えていくことを強く懸念しています。

○渡邊委員

西清川地区も、皆さんのお話とよく似ているなと感じております。

役員の方々の中には、もう何十年も活動が続けている方もいますし、10年以上役員を務めている方もたくさんいます。本当にそういうところが一番の問題だと思っています。

このまちづくり協議会についても、会長を担ってくれる方がなかなか見つかりません。そこで、苦肉の策で「もう輪番制で回していこうではないか」ということで、地区の会長さん方にも協力していただきながら、一定期間ごとに役割を引き継ぐ仕組みをつくり、何とか組織を運営しているような状態です。

私たちのまちづくり協議会では、防犯、防災、それから情報発信といった活動も行っています。地域の皆さんに必要な情報をお知らせする活動などにも取り組んでいますが、やはり担い手が足りないということを痛感しています。

これからは、若い人たちをどのように地域活動へ参加してもらうか、あるいは組織そのものを見直していかなければならないのではないかということも考えています。

自分たちの地区が安心・安全なまちになるように、しっかりと考えていかなければならないと思っ

ているところです。

○青木委員

岩根東地区まちづくり協議会の会長を務めておりますが、私はこの協議会で25個目の委員会、協議会の活動をしております。ですから、自分の次の担い手を探すことが、まず大変だなと思っております。

資料の9ページをご覧いただきたいのですが、現在、岩根東まちづくり協議会には個人や各種団体を含めて約50の団体が参加しています。しかし、先ほど皆さんもおっしゃっていたように、それぞれの会議に参加するメンバーはほとんど同じなんですね。

そのため、できればまちづくり協議会の中で、それぞれ個別に集まっている会議を一つにまとめてもっと効率化が図ればよいのではないかと考えています。そうすることで、まちづくり協議会の活動もやりやすくなりますし、役員や関係者の負担軽減にもつながるのではないかと考えております。

○秋元委員

八幡台地区でも担い手不足が大きな課題となっています。自治会活動には比較的参加者がいますが、まちづくり協議会への参加は少なく、そのような中で役員として活動を始めました。

八幡台地区では15年ほど前から自治会員の減少が進み、担い手不足も深刻化していました。そこで組織検討委員会を立ち上げ、自治会のあり方や加入のメリットについて検討を重ねました。その結果、社会福祉協議会や防犯灯、消防関係の費用を自治会員だけが負担していることが課題となり、4年ほどの議論を経て、非会員からも「地域共益費」を負担してもらう仕組みを導入しました。現在は、自治会加入率約70%を維持しながら、非会員の75～80%から共益費をいただいております、財政面はある程度改善されています。

一方で、担い手不足は解消されておらず、高齢者宅の電球交換や庭木の枝切りなど、地域の困りごとを支援する仕組みづくりにも取り組みましたが、十分な成果は得られませんでした。

その後、まちづくり協議会の補助金を活用して地域交流活動に取り組むこととなり、現在は地域カフェの運営をはじめ、子ども向けの講座や体験活動、お母さん方を対象とした研修会などを実施しています。

特に、お母さんや子どもたちに参加してもらうことを重視しており、継続的な関わりを通じて地域活動に関心を持つ人が少しずつ増えています。その中から地域の役員を引き受けてくれる人も現れており、将来の担い手育成につながり始めています。

○大村委員

金田地区まちづくり協議会では、防災を重点的な取組としており、市の総合防災訓練に合わせて地区独自の津波避難訓練を実施するとともに、防災用品や防災資機材の整備を進めています。また、昨年度は大学の先生を講師に招いた研修会を初めて開催しました。

地域住民の交流促進のため、交流センターで毎月第2水曜日にコミュニティカフェを開催しており、パンの販売なども行っています。金田地区では新しい住民が急増していることから、地域のつながりづくりが大きな課題となっています。

一方で、児童・生徒数の増加に対して学校施設の整備が追いついていないことや、自治会未加入者との関わり方も課題となっています。

そのため、今年の夏休みにはポッチャ体験会や子どもの居場所づくり事業に取り組む予定で、市からモデル的に実施してほしいとの依頼も受けています。保護者の皆さんと協力しながら活動を進め、新しく転入してきた方々との交流や地域とのつながりづくりにつなげていきたいと考えています。

○市川委員

鎌足地区まちづくり協議会は平成28年12月に設立されました。設立にあたり、地域住民全員を対象にアンケートを実施し、その結果から浮かび上がった地域課題を6つの分野に整理し、部会を設置して活動をスタートしました。

防災も重要なテーマの一つですが、それだけでなく、地域が抱えるさまざまな課題の解決を目的として活動を進めてきました。

設立当初は意欲的な活動が展開されていましたが、組織が10年近く経過する中で、担い手不足や次世代のリーダー・サブリーダーの育成が大きな課題となっています。人口減少が進む中で、組織を維持し発展させていくための人材確保が求められています。

そのため、現在は若い世代へのアプローチを重視しており、地域交流センターや小学校と連携しながら、子どもたちにも地域活動を知ってもらい、一緒に活動する機会を増やしています。

地域には多くの課題がありますが、まずはできることから取り組むことを大切に、実践と検証を重ねながら活動を進めています。また、昨年度と同じことを繰り返すのではなく、新たな工夫や付加価値を加えることを意識しながら、現在は6つの部会がそれぞれ活動を展開しています。

○原田委員

中郷地区まちづくり協議会は、令和元年に発足しました。その際、「令和時代を担う体制をつくろ

う」ということで、先輩世代を中心とした組織ではなく、できるだけ若い世代で体制づくりを目指してスタートしました。

会議については月2回、夜7時から開催しています。なぜかという、若い人たちは仕事の関係でその時間帯にならないと参加できないためです。また、仕事の都合などで会議に出席できない人もいることから、Zoomを活用した参加も可能にしています。

さらに、会議資料はすべてLINEで共有し、活動内容や審議内容についても情報共有できる体制で動いています。そのため、会議を欠席した場合でも資料や議論の内容をLINEで確認できるようになっています。そのような運営を行っていることで、いろいろな課題はあるものの、比較的良好な方向に進んでいるのではないかと感じています。

また、今後に向けてですが、現在の地域組織の体制は、行政からの下請けのような形になってしまっすけど、現状に合っていないと思います。これから地域を担っていく人たちが地域を守っていくための体制ではないと思うので、従来のものをできるだけ変えていって若い人たちが主体的に考えて行動できる組織をつくっていくことが、今後取り組まなければならない重要な課題であると考えています。

○高木委員

中央地区まちづくり協議会では、設立当初から「火と水に弱いまち」という地域特性を課題として捉え、「安心して安全に暮らせるまちづくり」を目指して活動してきました。

しかし、現在、中央地区交流センターは避難所に指定されておらず、災害発生時の避難先に対する住民の不安があります。実際に昨年の地震の際には、「津波警報が出た場合はどこへ避難すればよいのか」という問い合わせが地域包括支援センターに多数寄せられました。そのため、地域ケア会議を開催し、防災や避難に関する課題について話し合いました。また、津波情報の区域区分などについて十分に理解されていない住民も多く、地域への周知の必要性を感じています。

一方で、中央地区は第一中学校区を基本としているものの、区長会や消防団の所属区域が地域によって異なっており、組織の区分が複雑になっています。区長会や消防団の管轄が必ずしも地域の区域と一致していないため、地域活動を進めるうえで難しさを感じている状況です。

このように中央地区では、防災・避難体制の課題に加え、さまざまな組織や区域が入り組んでいることによる地域運営の難しさが課題となっています。

○鶴岡委員

清見台・太田地区まちづくり協議会は令和3年に設立され、子どもから高齢者までを対象とした幅

広い活動を行っています。

主な取組として、「子ども防災フェスタ」を開催し、救命体験や防災クイズ、避難所開設訓練、消火訓練などを実施しています。また、「スマイルフラワー運動」では、清見台小学校と太田中学校の児童・生徒とともに花を育て、地域の福祉施設や医療機関へ届ける活動を行っています。

さらに、中学生を対象とした宿泊体験や、地域の危険箇所を点検する「危険箇所確認パトロール」にも取り組んでいます。道路や排水溝の不具合を確認し、行政へ改善を要望しており、道路補修については比較的早く対応される一方、道路標示の補修については業者不足や予算の制約から改善に時間がかかっている状況です。そのため、継続して要望を提出しています。

また、年間3回程度開催しているコミュニティカフェでは、毎回テーマを設け、専門講師による健康講座などを実施しながら、地域住民同士の交流の場づくりを進めています。

活動自体は順調に進んでいますが、大きな課題として避難所環境の問題があります。避難所に指定されている清見台小学校の体育館には冷房設備がなく、近年の猛暑の中では、夏季に大規模災害が発生した場合の避難生活に不安があります。そのため、避難所への空調設備整備が必要であると考えています。

○鳥海委員

東清川地区でも、皆さんのお話と同様に、人材不足や高齢化が大きな課題になっています。

特に、高齢者の移動手段の確保が課題となっており、病院への通院や買い物など、日中は若い世代が仕事で不在のため、高齢者が移動に困るケースが増えています。

富来田地区の「ふくちゃんバス」のような取組も参考にしながら、高齢者の移動支援について地域として考えていく必要があるという話が出ています。

こうした課題に対して、今後どのように対応していくかについては、まだ模索している段階です。

○中村委員

畑沢地区では、まちづくり協議会の認知度が低いことが大きな課題となっています。設立当初は住民の多くがまちづくり協議会の存在や役割を理解しておらず、地区名も分かりにくかったため、アンケート調査を実施し、「畑沢地区まちづくり協議会」へ名称を改めるなどの取組を行ってきました。

地区内には住民会議や青少年相談員連絡協議会、自主防災組織、区長会、自治会連合会など多くの組織があり、その中でまちづくり協議会をどのように位置付けるのかが大きな課題となっています。

また、住民の多くが協議会の役割や参加方法を十分に理解できておらず、一部の人たちが中心となっ

て運営している状況が続いています。

現在は規約改正などを進めながら、若い世代を含めた幅広い人材の参加を促し、組織の見直しを図っています。しかし、高齢化や民生委員の担い手不足、消防団の維持など、地域にはさまざまな課題があります。

そのため、今後はまず地域住民にまちづくり協議会を知ってもらうことが必要であり、市にも協議会の役割や重要性、他の地域組織との関係性などについて積極的に情報発信してほしいと考えています。

また、まちづくり協議会は自治会だけでは解決できない地域課題を地域全体で解決していくための組織であると考えていますが、そのための共通理解や土台づくりが十分でないまま設置が先行した面もあると感じています。今後は、市が各地区の課題を吸い上げながら、まちづくり協議会の役割の周知や協議会同士の連携促進について、さらに情報発信していくことを期待しています。

○山下委員

波岡地区まちづくり協議会は設立から5年目を迎えましたが、役員の顔ぶれはほとんど変わっておらず、若い世代への世代交代が大きな課題となっています。担い手不足の解決は行政任せではなく、地域住民自身が考えていかなければならない問題だと感じています。

一方で、近年は子育て世代の方々が自主的にサークルや団体を立ち上げ、「居場所づくり」や「子育て支援」などの活動を展開しています。まちづくり協議会もそうした取組と連携し、シニア世代が支援を行いながら地域活動を進めています。

また、高齢者支援部会の活動として地域食堂を運営しており、若い世代から高齢者まで幅広く参加しています。特に中学生の参加が増えており、交流センターに気軽に立ち寄る姿も見られるようになっています。今後は、こうした中学生が地域活動やボランティア活動に参加しやすい仕組みをつくることが、地域活性化につながると考えています。

さらに、地域には長年の公民館活動の土台があり、地域住民、行政、交流センター職員との連携が重要だと感じています。地域課題は地域全体で考え、行政に頼るだけでなく、自分たちで解決策を見出していくことが大切だと考えています。

今後は、地域の皆さんが「参加したい」「関わりたい」と思えるような、ワクワクする活動を展開し、地域に見える形で活動を進めていきたいと考えています。

○山中委員

協議テーマ①「担い手となる方々の活動をどう活性化し、相互の連携をどのように図るか」についてですが、担い手にフォーカスするのであれば、活動を活性化するためにはインセンティブ、つまり活動に対する報酬や活動資金についても考える必要があるのではないかと思います。

担い手不足の問題については、皆さんからも高齢化のお話がありましたが、それだけではなく、若い世代は平日フルタイムで働いており、私自身も午後休暇を取って参加しているように、とにかく時間がありません。本来であれば仕事をして得られる収入があるわけで、その時間を地域活動に充てる負担もあります。その部分をどう支援し、どう補うかを考えることで、担い手自身の活動は活性化していくのではないかと思います。

また、相互の連携についてですが、私の理解では、この会議体はまちづくり協議会同士の連携を図るための場だと思っています。その中で各地区の委員同士が連携するには、情報連携ツールをどうするかが重要です。

現状では、紙の通知や回覧板、電話による連絡が中心で、情報共有に非常に手間がかかっています。一方で、その方法でなければ情報を受け取れない方もいるため、回覧板や紙媒体をなくすこともできません。しかし、若い世代であればグループ LINE 一つで情報共有ができます。リテラシーには差があると思いますが、集中講座などを行いながらデジタル化を進めれば、実際の会議が年数回であっても、常時情報共有ができるようになるのではないかと思います。

次に、協議テーマ②「施設の活用と機能の充実」についてです。

請西・真舟地区は長年公民館がない地区で、他地区のまちづくり協議会を見ながらも、「自分たちの地区は公民館さえないのだから」と考えていた時期もありました。しかし、市と話す中で、状況の変化もあり、昨年の下期にまちづくり協議会を立ち上げました。

資料には「施設の活用と機能の充実を図り、多様な主体が利用することで交流や新たなつながりが生まれる」とありますが、公民館から交流センターへ移行したことで、営利目的の活動を行う団体も利用できるようになりました。その結果、施設予約が取りづらくなっているという話もあります。

そうすると、収益活動を行う団体同士の公平性をどう確保するのか、また地域のために活動しているボランティア団体が利用しづらくなった場合、それでも利用率が上がったことをどう評価するのか、といった問題が生じます。その線引きは重要な課題だと思います。

「多様な地域団体」と言っても、みな同じ市民です。上下関係があるわけではありません。そのため、交流センターの位置付けや、交流センターを中心としたまちづくり協議会の役割、またそれを担

う立場については、私たち地域団体が示すのではなく、行政など公的な立場の方々が一定の方向性や定義を示していただく必要があると思います。

そうした整理がなされないと、交流センターの活用や機能の充実、そして交流や新たなつながりの創出には中々、繋がっていかないのではないかと思います。

○志渡委員

二小地区まちづくり協議会は、今年の2月に立ち上がったばかりの組織です。形として立ち上がりました。現在は、区長の皆さんといろいろな話をしているところですが、全体としては災害時の対応を中心に活動していこうという方向になっています。それはいいのですが、私は災害といっても、水害や地震、台風など、それぞれによって状況が異なると考えています。私たちの地域は、土砂災害の心配はそれほどありませんが、災害の種類によって割と強い部分と弱い部分があります。実際に二小地区でも、例えば線路より海側の地域は標高が低いため、水害には弱い面があります。また、埋立地の上にできた地域もあるため、地震の際には液状化の心配があります。

それから、避難所に指定されているところが地区全体から遠く、避難した際には満員になってしまいうこともあります。このように、地域によって災害への強みや弱みが異なりますし、災害の種類によっても課題は変わってきます。

そのため、災害が発生したときには、地域同士がどのように助け合うのか、被害の少ない地域が被害の大きい地域を支援するような「共助」の仕組みが必要ではないかと考えています。そのような話を区長の皆さんとも行っており、多くの区長さんには同意いただけていますが、一部の区長さんには「自分たちの地域は大丈夫だから、一緒に活動するのが理解できない」という意見もあります。まだまだ前途多難でございます。

○滝口委員

私は、社会福祉協議会の立場として参加しておりますが、今日のお話を伺って、まちづくり協議会についてよく理解することができました。ありがとうございました。

私は普段、地区社会福祉協議会（地区社協）の活動を中心に関わっておりますので、どちらかというと地区社協のことばかり考えております。高木委員は、まちづくり協議会と地区社協の両方に関わっていらっしゃると思いますので、これからも高木委員に色々と教えていただきながら勉強させていただきたいと思います。

まちづくり協議会には、私どもの地区でもシニアクラブや民生委員、地区社会福祉協議会、赤十字

奉仕団、更生保護女性会などが参加し、連携して活動することになっています。

私自身、さまざまな会議に出席しており、会長という立場上、色々な分野の会議に出席しなければならず、頭の切り替えも中々大変です。そのため、今日は十分に理解できていなかった部分もありましたが、皆さんのお話を聞いて、まちづくり協議会がどのような役割を担っているのかがよく分かりました。

特に印象に残っているのは、富来田地区の取組です。新聞などでも、まちづくり協議会として市へ要望活動を行っている様子をよく目にしていました。バスの問題をはじめ、様々な地域課題について、市に対して積極的に提言や要望を行っていることを知っていましたので、その頃からまちづくり協議会の活動は知っておりました。

ただ、今回のお話を聞いて、地区社会福祉協議会と同じように、市内15地区それぞれにまちづくり協議会が設置されていることや、二小地区が最後に設立されたことなども含め、色々よく理解できました。

また、私共も、現在、「生活支援体制整備事業」がありまして、そちらは5支部作りまして、それぞれ、それに関連して皆様方のまちづくり協議会の方にお願ひしたり、総会に出させていただきますので、またいろいろなご意見をいただきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○水島委員

私は社会教育委員という立場から、先ほどから皆さんのお話をずっと伺っておりましたが、どの地区でもやはり担い手不足が大きな課題になっているのだと、改めて実感しております。

木更津市内全体を見ても、地域組織の運営の中心となっている方々の高齢化が進んでおり、次世代の担い手不足が課題になっているんだと感じました。

山中委員と同じで、私自身も現在仕事をしております、今日も午後から休暇を取って、この会議に参加させていただいております。若い世代とは言えませんが、私くらいの世代をまちづくり協議会の役員や中心的な担い手として置こうとするとなかなか難しいです。現在は、ご夫婦共働きの家庭が非常に増えていますので、役員をお願いしても、「平日は仕事があって出席できません」、「土日は子どもの行事があるので難しいです」となかなか難しいと感じながら私自身も地域活動に参加しております。

やはり中心になっているのが高齢者であるため、これまでのやり方からなかなか脱却できず、若い

世代にとっては参加のハードルが高くなっている面もあるのかなと感じています。学校や PTA、自治会、青少年育成団体などがそれぞれ独立して活動しており、地域全体としてのネットワーク化や情報共有も、まだまだ不十分なのかなと感じております。

これまでは公民館が社会教育法に基づき、学びや教育に重きを置かれておりましたが、交流センターへ移行したことで、地域活動をより幅広く活動してくださいという形に変わりました。

そのため、子どもたちにもっと交流センターへ足を運んでもらい、地域の方々と関わる機会を増やしていくことが大切だと思います。居場所づくりも含めて、地域の中で多世代が交流できる場をつくっていく必要があると感じています。

また、私たちに求められていることは、住民一人ひとりが地域の課題を理解し、学び、その学びを実際の活動につなげていく仕組みやプロセスをつくることではないかと思います。

そして、地域全体で、若い世代や外国人など、様々な層を巻き込むことが不可欠ではないかと思えます。

○議長（江澤委員長）

皆様ありがとうございました。本日は皆様からたくさんの貴重な意見をいただくことができました。頂戴した意見につきましては、事務局において、今後の方向性や取組につなげていただければと思います。

以上で、本日予定されていた議題が終了いたしましたので、議長の任を解かせていただきます。円滑な議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

6. その他

○事務局（島村）

皆様、ご発言いただき、誠にありがとうございました。

本日は、担い手不足という中で、若い世代の取り込み方や、担い手へのインセンティブの必要性など、様々なご意見をいただくことができました。

本日の内容は、事務局で整理しまして、その結果をお示ししていければと思います。また、本日の意見交換の中で十分に意見を出せなかった、発言できなかった部分もあると思いますので、7月末までに、もし追加で意見等がありましたら、ご連絡いただければと思います。

それでは、最後に次第6 その他ということで、皆様から何か連絡事項等はございますでしょうか

か。

○秋元委員

すみません。皆さんのいろいろなご意見を聞かせていただき、ありがとうございました。やはり、どこの地区でも担い手不足が大きな問題になっていると思います。

私が市に対して申し上げたいのは、担い手をどのように発掘し、どのように育成していくのかという視点が、この資料には載っていません。何となく「地域で考えて、地域でやってください」という話になっているような気がします。そういう意味では、市の方としてまちづくり協議会を推進していくのであれば、担い手をどのように発掘するのか、またどのように育成していくのかについて、明確にしていきたい。

市にはさまざまな地区の情報や事例が集まっているはずですからそれらを整理・分析したうえで、地域にとって参考となるような具体的な仕組みや方策を示していただきたいと思っています。

各地区とも、それぞれ苦労しながら考え、工夫し、活動しています。しかし、なかなか思うように担い手の確保につながらないという現実があります。

また、先ほど山中委員からもお話がありましたが、お金の問題も出てくるかもしれません。その辺も含めて、市としての考え方や方向性をしっかり示していただきたいと考えています。

○山下委員

波岡地区まちづくり協議会の山下です。

これは、まちづくり協議会が主催する大変ワクワクする事業（なみそら）です。交流センターとなったことを記念して、地域の皆さんに思い出に残るイベントを提供しようということで、8月4日に熱気球を波岡地域交流センター裏のグラウンドから上げて、乗れる体験イベントを開催します。このイベントは、波岡地区の住民を対象とした事業ですので、熱気球への搭乗は地区内の方に限定させていただいております。ただし、地区外の方でも見学は可能です。おかげさまで現在、130名ほどの申込みをいただいております。今は交流センターの職員とまちづくり協議会の役員が、開催に向けて準備を進めているところです。

ご都合のつく方は、ぜひ8月4日にお越しいただき、熱気球を楽しんでいただければと思います。交流センターの開館記念事業として、地域の皆さんと一緒に祝いしたいと考えております。

○山中委員

先ほどの情報連携の話の続きになるかもしれませんが、すぐに皆さんがLINEを自由自在に使える

よくなるとか、市が一部で活用している LINE WORKS を使いこなせるようになるというのは、なかなか難しいと思います。取り急ぎ、今日の会議の議事録を周知されると思うんですが、協議会の専用ページをホームページのどこかに設けられないですか。そこにアップしていただくのが、一番早くて実行性があると思います。

ところが、市役所では、Excel や Word で作成した資料を PDF 化してホームページに掲載することが多いのですが、その PDF を開いてパソコンやスマートフォンで閲覧するのは、結構面倒なんですよ。なので、テキストベースで内容を掲載していただきたいと思います。今回の協議会でどのような議論があったのか、どのような意見が出たのか、議事録や開催内容が誰でも直接読める形になっていると、とても分かりやすいと思います。

そうした専用ページを設けていただければ、一番情報共有ができる方法なんじゃないかと思い、提案させていただきました。

○原田委員

これから2回、3回と会議があると思いますが、もう少しテーマを絞っていただきたいと思います。例えば、担い手の話であれば、「担い手をどうしたらいいか」といったテーマを絞って議論を進めた方が良くはないでしょうか。他責の話ばかりを聞いても自分のためにはならないので、もっと自責で考えた意見を聞きたいなと思いますので、もう少しテーマを絞っていただきたいと思います。

○事務局（島村）

まず、情報共有の件については、ホームページへの掲載なども含めて、できるだけ早く情報を共有できる仕組みを検討していきたいと思います。

また、テーマについてですが、本日は、今後の方向性を定めるため、幅広くご意見を伺いましたが、今後はもう少しテーマを絞った形で議論できるようにしていきたいと考えています。

○山中委員

質問なんですけど、請西・真舟小地区って、新しい地区と古い地区が混ざっている地域なんです。旧請西地区と請西東、請西南地区では全然歴史が違います。もともと山だったところを住宅地にした地域もありますし、専用住宅地のような新しい地区もあります。できてからまだ5年くらいで、200～300世帯ほどの地区なのかな。請西南が約2,000世帯、請西東も約2,000世帯、請西地区も約2,000世帯、真舟地区も2,000世帯くらいだったと思います。そういう複数の地区で構成されていま

す。そうすると、「自分たちの地域が一番だ」という意識を持っている先輩方をまとめることが、私自身、若輩者なのでなかなかできなくて、要するにセクショナリズムというか、自部署最適とか、自分の地域さえよければ良いという考えがありますよね。皆さんは「うちの地域は」とお話しされていましたが、そうした地区ごとの考え方の違いについて、どのようにコンセンサスを取っているのでしょうか。まちづくり協議会は複数の地域を包含していると思いますし、それぞれの地区ごとに事情や歴史、人間関係、有力者の存在など、様々なしなごみがあると思います。その中で、すべての地区に公平で、みんなの利益になるような共益をと言えない部分もありますが、みなさんの地区はどのように進めていますか。もし、「うちはこのやり方でうまくやっている」という事例があれば、ぜひ教えていただきたいです。

○中村委員

畑沢地区であれば港南台と畑沢とそれぞれ地区ごとの特性としてあります。また、富来田地区には富来田地区で全く違う状況があります。そうした中で、そういう情報交換をどこまで行うのかを整理してもらいたい。私自身は、請西・真舟小地区の状況と似ている地区なので、情報交換ができると思っています。しかし、この会議全体で何をテーマとして議論するのかという点については、少しばらつきがあるようにも感じています。先ほど「テーマを整理した方がよい」というご意見もありましたが、私もほかに話したいことはたくさんあります。ただ、今回は第1回目ということもあるので、まずは皆さんの色々な考えを聞いたうえで、今後、何を議論していくのかを整理していただければと思います。

7. 閉会

○事務局（島村）

本日は会議時間も限られていますので、頂きました質問やご意見を踏まえまして、今後の方向性を決めさせていただきますと思います。

以上をもちまして、第1回木更津市地域協働推進協議会を終了といたします。

ありがとうございました。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和8年7月17日

木更津市地域協働推進協議会 委員長

江澤茂典